



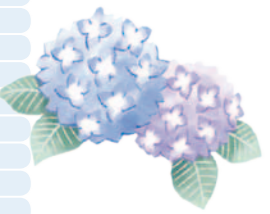
# 人権教育の推進と 社会教育部長

社会教育課

田布施町では年2回(6月と2月)、人権教育推進協議会を開催し、方針や施策を協議するとともに、事業の実践・検証を行っています。とりわけ、地域社会における取組では、「社会教育部長研修の継続と深化」を重要な柱の一つに据え、その推進体制の充実に努めています。

社会教育部長は、昭和52年を皮切りに町内の全地域に位置づけられました。地域懇談会の企画・運営や、地域住民への人権啓発がその主な役割ですが、地域のふれあいを深めることを目的とした公民館や自治会行事にも献身的に携わられた心豊かな地域社会の実現に向け尽力されています。

また、各地域で定期的に開催される地域懇談会は、地域の人権課題を共有するとともに、人権にかかわる社会的な動向に目を向けることができる貴重な機会です。ご案内は、公民館などより多くのお知らせいたします。より多くの参加がありますようご協力をお願いします。



夏到来で、アクティブに活動できる季節になりました。麻郷小学校のおやじの会では、毎年夏にキャンプを実施しています。今回は、日本キャンプディレクターの資格を持つ、おやじの会会長の相本一生さんにお話ししていただきました。



## キャンプを通しての思い出作り

No.272

高塔自治会 相本 一生



キャンプには、面白い何かを感じさせてくれる物がある。

わたしの初めてのキャンプの思い出は、小学生のころに参加した子供会のキャンプです。そのころは子供会の活動が盛んに行われていて、夏には必ずキャンプがありました。場所は海であったり、小学校の校庭や自治会内にある空き地でやったこともありました。そこで子どもたちと一緒に楽しいキャンプをしてくれた人は、主に地域の世話好きなおじさんだったように思います。わたしはそのキャンプに参加し、いろいろな体験をしました。今思えばそのときの経験が「生きる力」を体験した始まりだと思っています。

時代は変わり、最近子供会の活動はほとんどなく、家族でもテントを張るようなキャンプを経験することはほとんどなくなりました。

わたしの子供が通う麻郷小学校のおやじの会の懇親会に参加したとき、小学校でキャンプができないか?という話題が出ました。偶然にもそのときわたしは日本キャンプ協会公認の指導者資格を取り、キャンプの企画・運営を始めました。そしてその年、多くの人に手伝っていただき、小学校の校庭で子どもたちが自分の力でテントを張りマキで調理をするキャンプをすることができました。そのときの経験は指導するわたしにとっても、参加した児童にも強烈な体験・思い出ができたのではないかと思っています。

それから毎年おやじの会のキャンプを続け、今年で6回目になります。参加する児童は一度参加すると次年度も参加してくれるので、それなりに楽しんでくれているのだと思います。中には中学生になってもお手伝いで参加してくれる子どももいます。そのくらいキャンプには、面白い何かを感じさせてくれる物があるのだと思います。

そのおやじの会のキャンプですが、最近手伝ってくれる元気なおやじが少なくなってきました。キャンプに限らず得意な分野で、子どもたちと元気に遊んでみたい人は、各小学校のおやじの会に参加して、子どもたちと思い出を作ってみませんか?

右上ロゴ:生涯学習のマスコット「マナビ」  
デザイン:右ノ森章太郎



シリーズ④

# 文化財

社会教育課 文化財調査室  
☎25・3185

### 納蔵原古墳

(6世紀中期・西暦550年頃)

納蔵原古墳は、田布施町大字大波野字納蔵に所在します。行者山(標高194m)の北側の丘陵部に位置し、東側500m先の低地には弥生時代・古墳時代の集落遺跡(明地遺跡)があります。

古墳の形状は、直径約10mの後円部に長さ約10mの低い前方部が南に延びる前方後円墳で、石室は両袖型の横穴式石室です。玄室の長さ4.3m、奥室幅2.8m、高さ2.3m、玄門部幅2m、高さ2.2m、玄門の幅1m、高さ1.1m、羨道の長さ推定1.8m、幅1.3m、羨道高さは不明ですが、約5mの墓道が確認されました。

古墳からは完形もしくはそれに近い須恵器、鉄鏃、鉄刀、馬具、装身具、円筒埴輪などが出土していますが、遺物の出土状況などから盗掘を受けていたと考えられています。

(出典:納蔵原古墳 1996 田布施町教育委員会)



▲玄室内部



▲納蔵原古墳全景



◀相本さん率いる「おやじの会」に教わり...

▼キャンプに参加した子どもたちも笑顔!